vol.1

「接待ゴルフ」の復活で業界の活性化を目指せ！

今こそ 冨田賢の「上手な接待ゴルフ」のススメ

冨田 賢
（とみた さとし）

株式会社ティーシーコンサルティング代表取締役社長。事業提携による新規事業の立ち上げや売上アップを得意としている。この約7年で150社以上の豊富な実績。ベンチャーキャピタルにて上場経験も有する。慶應義塾大学卒業。京都大学大学院経済学研究科修了。
Webは、「とみたさとし」と検索！本稿のご感想、気軽にお送りください。
電子メールは、tomita@tcconsulting.co.jpまで！

なにか、「接待」というと、日本的なダーティなイメージでとらえられがちですが、ワールドワイドで見ても、決しておかしな行動ではないのです。接待は悪いものだと考えるのは、むしろ日本人の固定的な思い込みと言えます。

接待交際費の税制も改正になる見込みです！

アベノミクスの中で政府は、まだ確定ではないものの、接待交際費について、税制改正を行う見込みです。その税制改正が決まれば、政府が接待交際費の利用拡大を後押しする形となり、〝サラリーマン〟にとって大義名分ができます。「接待ゴルフ」の復活に向けて、こんなに良いチャンスの時期はありません。制度改革は、大きなビジネス・チャンスです！

こんなゴルフ接待は、もったいない！

ここで一つ、私が経験したもったいない「接待ゴルフ」の事例をご紹介しましょう。

ゴルフ業界のメイン・ターゲットは、経費でゴルフをする人だ！

ゴルフ産業が成長した最大のエンジンが「接待ゴルフ」であったと言えます。企業の接待交際費が潤沢であった時代、ゴルフは格好の営業ツールとして利用され、市場規模を拡大しました。

しかし、バブル経済の崩壊で接待交際費が引き締められると、接待需要に依存するゴルフ市場は急激に縮小し、その反作用から業界は、「接待ゴルフ悪」を論じたて、これからは〝ポケットマネーゴルフ〟を推奨しようとなったと聞いています。しかし、企業の財布も個人の財布も、ゴルフ市場へ流入するお金は同じです。この連載では、この点に疑問を呈してみたいと思います。

ゴルフ業界のメイン・ターゲットはやはり、〝経費生活者〟と呼ばれる中小企業の経営者や、企業の法人営業での利用なのではないでしょうか？それを悪いことだと位置付けてしまっては始まらないと思います。

「接待ゴルフ」は、悪くない！

皆さん、本当に「接待ゴルフ」は、悪いものなのでしょうか？　私はそうは思いません。

ゴルフを通じてのコミュニケーションは、ビジネスにおいて、非常に有益だと実感しています。

私は、「事業提携（アライアンス）の専門家」として、多くの企業と企業をつなぎ合わせています。その活動の中で、オフィスの会議室や交流会でのお引き合わせではなく、ゴルフ場でのお引き合わせ（特に、社長さんと社長さん）は、とても重要な要素となっています。

本当に忙しく、ステイタスのある方は、ゴルフの場面以外で、時間を調整することが難しいケースもあります。しかも、ゴルフであれば、あまり交流会等に参加しない方も出てきてくださることも多いのです。

私は、米国系銀行や経営大学院の教員として、海外での経験も相応に有していますが、海外のトップエリートたちも、飲食での接待も当然行いますし、ゴルフでの接待も実践しています。

某工作機械メーカーの新規事業部長は50代で生真面目な性格。

この方は接待ゴルフの前に私のプロフィールを下調べして、最近、赤いスポーツカーを買ったことを知りました。そこで彼が予約したゴルフ場は、なんと、富士スピードウェイに隣接するコース。

当日はレースが行われているらしく、1番ホールのティーショット、ドライバーを振り上げるとウワ～ンッという爆音に襲われました。それだけではなく、渾身のバーディパットでも、またウワ～ンッ！　とうとう私は、

「部長！このゴルフ場、うるさすぎますよッ」

すると部長は一言、

「冨田社長のブログを拝見して、車好きだと思いましたので……」

クルマ好きだから、ゴルフ場もサーキットの傍が喜ばれるだろうと考えたらしいのです。

この日の接待交際費は、前泊の宴会とゴルフを合わせ、相応の金額が掛かったでしょう。それなのに、逆に怒られてしまう結末……。

ゴルフ接待では、ゴルフ場選びが最大の肝！

ゴルフ接待での最大のポイントは、何と言っても、ゴルフ場選びです。注意すべき点は、2つです。

1つ目は、場所が相手の方にとって、遠すぎない場所のゴルフ場を選ぶ、ということです。これは、当たり前のことですが、案外、安い料金のコースを選びました！

ということで、都心からずいぶん遠い場所のゴルフ場を平気で選ぶ方がいます。費用負担がどうであれ、プレー代うんぬんよりも、アクセスの良さが重要です。

2つ目は、良いスコアが出るゴルフ場を選ぶということです。これは、本当に鉄則です。純粋にゴルフをスポーツとして楽しむのであれば、難易度が高いコースにチャレンジするのも、一つの楽しみだと思います。しかし、「接待ゴルフ」では、ともかく、ひたすら、良いスコアが出やすいコースを選び、相手に気分良く帰っていただく！　ということに尽きます。ここをはき違えてはダメです。難しいコースで、皆、機嫌を悪くしてしまったという経験は誰しもあるはず…。「接待ゴルフ」では注意しましょう。

今回は以上です。来月も、よろしくお願いします！

1404golf_130-131_接待ゴルフ.indd 130-131　14/03/10 17:15